

いま、医療の分野で必要性が唱えられているのがプライマリ・ケア医学である。平易に言えば、身体をパーツではなく、心も身体も総合的に診るものだ。その国際組織として世界家庭医機構（略称WONCA）があり、定期的に学会が開催されてきた。

先日クウェートで第5回東部地中海WONCA大会が開催され、出席することになった。私は糖尿病に対する糖質制限について発表し、2700例中体重減少10%以上の人が25・6%にみられ臨床的に効果的であることを示した。

今回の議論で浮き彫りになってきたのが、中東における肥満や糖尿病の高位頻度である。国際的に発表されているWHOの報告に驚いた。糖尿病が多い世界トップ10の国々の中に、クウェート23%、カタール23%、サウジ

日本が真ん中に位置する。以前米国で見た地図では、中央に北米と南米があり、左右の隅にアジアが2つに分かれて配置されていた。そもそも、欧州が世界の中心と考えるため、日本は東の最果て、つまり極東に位置することになってしまった。

一方、視点が変われば呼称も異なる。たとえば日本海の呼称は鎖国状態の19世紀前半から国際的に認知され、国際水路機関（IHO）が1929年以降Sea of Japanと正式表記している。が、政治的な理由で他国が東海、西海、南海などと主張することもある。

かつては西南アジアと呼ばれたが、現在では中東と変わり、いろいろな視点によって異なる。政治的にも宗教・言語学的にもエジプトを含めた議論も増えてきている。

中東地域はアラビア語圏で、地政学的にも気候的にも類似点が多い。もし、万が一、この地域がシベリアのように

アラビア24%と、中東の3カ国が含まれていたからである。

それはなぜなのか？クウェート国は1961年にイギリスから独立した。1990年イラクによるクウェート侵攻、1991年湾岸戦争の勃発などを経て、同年イラクの占領から解放されることに。石油が主要産業で、埋蔵量は世界第4位。豊富なオイルマネーで産業基盤の整備や福祉・教育制度の充実が図られている。

つまり、まず裕福な国家であることが一因であろう。次に、気候や職場環境を考えると、屋内でのコンピュータ作業等に従事する人々の割合が多いと推測される。

実際に街を散策してみると、アラビア諸国の人が身につける衣装が多い。白色や黒色の生地でマントのように纏極寒だったり、赤道直下の高温多湿気候だったりすれば、歴史も肥満の頻度も全く違ってきただろう。

◇ ◇ ◇
出張の際、ヨルダンにある砂漠の古代都市遺跡「ペトラ」にも訪問。紀元前3世紀ごろに碑文に刻まれたナバテア文字を目前で観察でき、古の文明には驚かされた。

WONCAに出席後、次回の東部地中海WONCA会議（2018・11）において基調講演「糖質制限の臨床と研究」を担当させていただくお話を頂いた。会場はイラクの首都バグダッドで、イラク家庭医学会との共催である。現地の学会事務局とメールで連絡を続けているが、日本国内とは異なり、リ

スポンスはやはりスローである。ピザ取得には多くの書類が必要で、一段階ずつ進めていかねばならない。

なお、中東諸国についていろいろと調べてみると、通常欧米へ観光旅行に

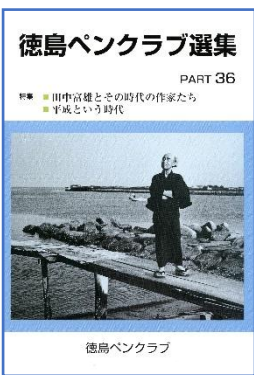
う服は、男性ではカンドウーラ、女性ではアバヤと呼ぶ。利点は、気候が暑くても、体にまとわりつかず涼しく感じる。逆に、多少太ってしまったとしても、見た目にもわからず、自分も苦しく感じないため、知らぬまに太ってしまうかもしれない。

市の中心部にある市場を訪れると、これらの服の専門店が多い。安い既製服もあれば、非常に高価なオーダーメイドもあるようだ。

◇ ◇ ◇
なお、現地の方からの話では、医学会で背広姿の医師はおおむね普通であるが、一方、民族衣装を纏っている医師では、経済観念が何桁か違う人々が含まれているとのことだった。

◇ ◇ ◇
さて、ここで世界地図について考えてみたい。日本にある地図は、通常、行くのとは状況が異なる。招聘の書類、相手の医学会および日本の医学会からの講演者に関する推薦状、詳細な渡航計画や滞在先情報などが必要で、簡単ではなさそうだ。

歴史を振り返ると、中東地域は古代の文化や医学が発祥した場所でもある。本来、宗教・医学・音楽は同根であり融合しながら発展してきた。同地域に特徴的なコーランや音楽が生活環境に流れ、生活と融合しているようだ。日本人から見ると、時空を超えて不可思議な空気が街に浮遊しているように思えた。こんな状況の中で、当地域における糖尿病のいろいろな状況を考えていきたいと思う。



徳島ペンクラブ選集 PART 36

■ 田中富雄とその時代の作家たち ■ 平成という時代

徳島ペンクラブ